

特集 中原中也記念館

特別企画展 「月光とメルヘン」

一つのメルヘン



ようこそ、

中也の
メルヘン
世界へ

秋の夜は、はるかの彼方に、

小石ばかりの、河原があつて、

それに陽は、さらさらと

さらさらと射してゐるのであります。

特集

03 ようこそ、
中也の
メルヘン世界へ

中原中也記念館
特別企画展「月光とメルヘン」

ピックアップイベント

08 いつもと違う夏計画

山口情報芸術センター

マレビトの会 滞在制作/新作演劇公演「PARK CITY」
演劇と写真が、舞台に新たな記憶を刻む

演劇公演「旅とあいつとお姫さま」
カラフルな色使い、音楽とダンスがあふれる旅と愛の物語

中原中也記念館

公開講演「西條八十の世界」
童謡詩人・西條八十を知る

山口市民会館

レニングラード国立舞台サーカス「レニングラードサーカス」
ロシアで最も人気のサーカスがやってくる!

山口・島根 2県連携プロジェクト

「東京都交響楽団特別演奏会」
伝統ある日本のオーケストラ×若手実力演奏家が競演

12 any通信

- ◎アーティストボイス 佐藤時啓 (美術家・写真家)
- ◎お先に試写しました 「子供の情景」
- ◎いただきます おむすび (「番茶」)
- ◎GOOD GOODS 「YUDA ART PROJECT」オリジナルでぬぐい
- ◎My Favorite 中原 豊 (中原中也記念館館長)

14 イベントカレンダー 7~9月
INFORMATION



中原中也

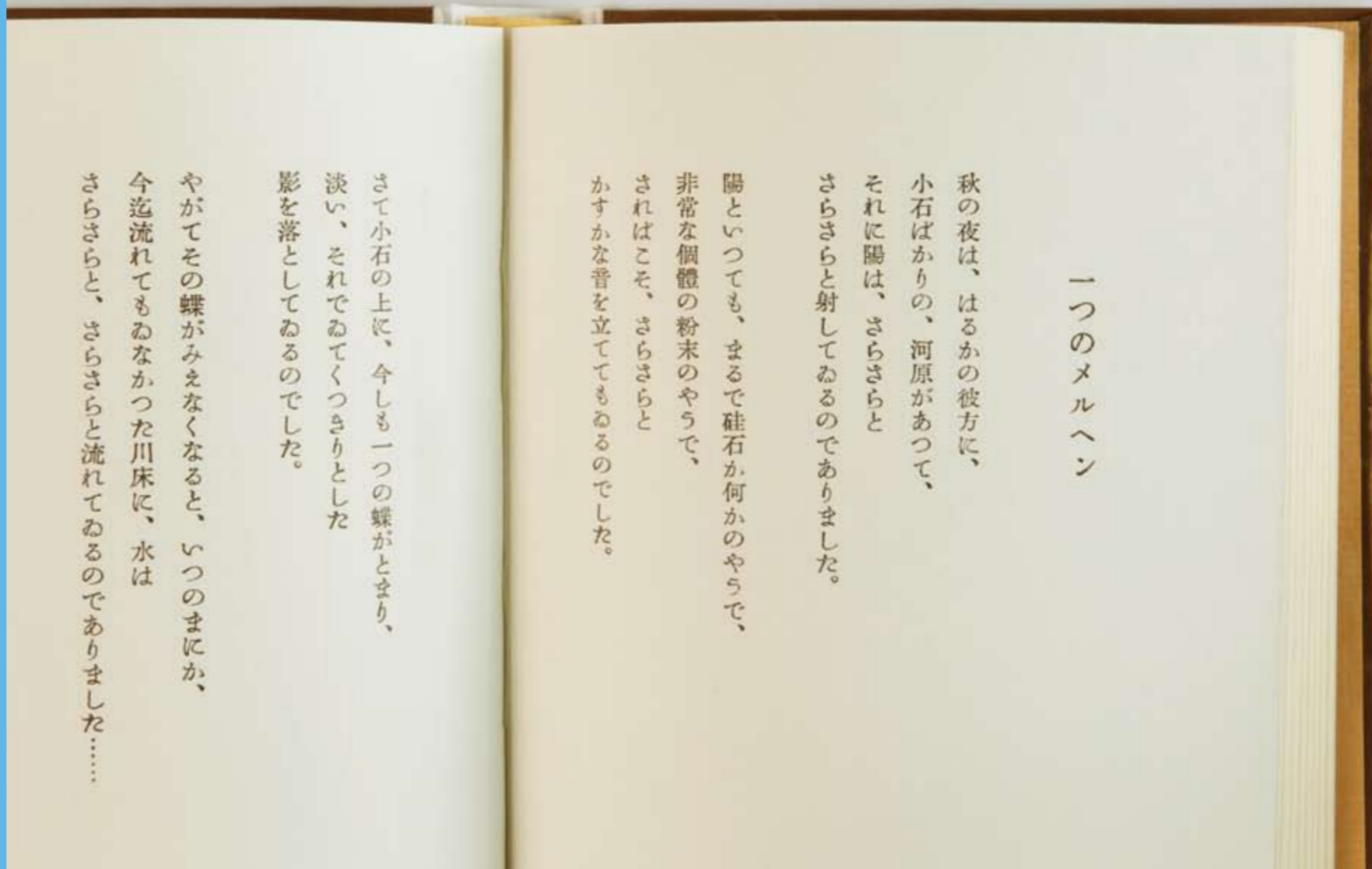
NAKAHARA Chuya

1907(明治40)年、山口市湯田温泉で裕福な医者の子として生まれる。優れた詩才は少年の頃からあらわれており、8歳の頃、死んだ弟・亜郎のために歌った詩が中也の詩作の原点となっている。16歳頃から京都にて本格的に詩作を始め、のちに東京に移り1934(昭和9)年、最初の詩集『山羊の歌』を出版。また『ランボオ詩集』を翻訳するなど、フランス詩の紹介にもつとめた。1937(昭和12)年、30歳の時に結核性脳膜炎により鎌倉で永眠。倦怠感や喪失感、そして生への悲しみを抒情的に表現する中也の詩は、死後評価が高まり、今も多くの人々に愛されている。



詩集「一つのメルヘン」が収録されている詩集『在りし日の歌』。1938(昭和13)年、友人の小林秀雄らによって出版(装丁は青山二郎)。扉裏の頁に、「亡き児文也の靈に捧ぐ」と献辞している。

ようこそ
中也の
メルヘン
世界へ



一つのメルヘン

秋の夜は、はるかかの方方に、
小石ばかりの、河原があつて、
それに陽は、さらさらと
さらさらと射してゐるのであります。

陽といつても、まるで硃石か何かのやうで、
非常な個體の粉末のやうで、
さらばこそ、さらさらと
かすかな音を立ててもゐるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶がとまり、
淡い、それでゐてくつきりとした
影を落としてゐるのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、
今迄流れてもゐなかつた川床に、水は
さらさらと、さらさらと流れてゐるのであります……

山口が生んだ抒情詩人、中原中也。
その30年の短い生涯でなした仕事を、
様々な展示で紹介している中原中也記念館。
7月から始まる特別企画展では「月光とメルヘン」というテーマで、
中原中也の詩の深い世界にアプローチします。



1914(大正3)年、小学校入学の日の中也。長男としての期待も大きく、よくできる優等生だった。学校の先生や近所の人から神童と呼ばれていた。

中原中也は「一つのメルヘン」をはじめ、
たくさんのメルヘン的な詩を生み出しています。
そこには「月光」というモチーフとも深いつながりがあるのだとか。
おとぎの国や童話といったイメージのメルヘンとは違う、
中也が描くメルヘンの世界を、今回の特別企画展の担当学芸員、
那須香さんと池田誠さんにご案内してもらいます。

多くあるのではないかと
感じていました。
メルヘン的な要素が
中也の詩に

なぜ今回は「月光とメルヘン」というテーマを取り上げたのですか？

那須 私たちは、中也の詩にメルヘン的な要素が多くあるのではないかと感じていました。

これまでの特別企画展では、中也と関わりのあった小林秀雄・宮沢賢治・青山二郎といった歴史に名を残した人物や、中也が創刊時より名を連ねた同人詩誌「歷程」、中也がよく聴いていた西洋音楽など、中也の詩に大きく影響を与えたものとの関連を扱ってきました。このような具体的なテーマとなるとちょっと固くなりすぎ、対象年齢が少し上の方に限られてしまいがちでしたが、今回は若い方達にもぜひ中也の詩にふれてほしいという思いからメルヘンという親しみやすいテーマにしました。

現代ではメルヘンというと、子どもが読むおとぎ話や、妖精が出てくるようなきれいな童話の世界、夢のような明るく美しい世界を想像しますよね。しかし、もとはドイツ語で、現実を離れた想像の「短い物

語」を指す言葉であり、人間の深く暗い部分に触れるものをもっていったようです。中也の詩には「メルヘン」という言葉が使われている作品が2篇ありますが、中也の360篇あまりの詩の中には、一見、現代のメルヘンのイメージにあてはまるような詩もあり、またももとのドイツ語が意味する、人間の深い部分を表現したメルヘンの詩も多くみることができます。また中也の詩には、今回のもう一つのテーマ「月光」をモチーフとしているものが数十篇あって、それらの多くはメルヘン的な雰囲気が漂っていて、メルヘンと月光には深い関連があると思われるので両方に焦点をあてることにしました。

とても早熟だったのもっと大人向けの本に
手を出していたかも
しれませんね…。



中也は子ども時代、どんな本を読んでいたのでしょうか？

池田 はっきりわかりませんが、弟の重郎が亡くなった時に、当時8歳頃の中也が初めて詩を作ったというのですが、その詩は学校の教科書の中に出てくるお話で「楠木正行が、死ぬ前に今一度、後醍醐天皇のお顔を拝みたい」というのにヒントを得たと中也自身が「詩的履歴書」の中で言っています。だから物語として「正行」を読んだということがわかりますね。

那須 明治になると外国から日本へ多くの童話が入ってきました。また大正期には、当時の少年少女が好んで読んだ「赤い鳥」「金の船」「コドモノクニ」などの雑誌が創刊されました。しかしその頃、少年

だった中也がそれらの雑誌を読んだか定かではありません。とても早熟だったのでもっと大人向けの本に手を出していたかもしれませんね…。

池田 この頃に、児童雑誌が多く創刊されたのは、大正自由教育の流れだと思います。大正デモクラシーの流れの一つで、子どもの人格を認め、個人、自我がきちっと捉えられるようになったんです。そして作る側も「子ども向け」を意識的に作るようになり、「赤い鳥」などの児童雑誌の原型が作られるようになりました。

そして、子どもには良いものを与えよう、つまり良いものとは、きれいな挿絵やお話であったわけです。子どもにとって残酷なもの、ひどいものは削ぎ落としていく、子どもには美しいもの、きれいなものを与えていくと、良い人間に育っていくだろうと考えられるようになっていきました。

では見た目にはかわいらしいイラストが入った「赤い鳥」などの児童雑誌には、そういうきれいなお話ばかりが載っているのですか？

池田 作者にもよりますね。北原白秋は結構残酷なものを書いていますよ。「赤い鳥」の中で「金魚」という詩を発表していますが、「お母さんが帰ってこなくて淋しいから、金魚を一匹殺しましょう」と。白秋は、あえて意識的にその残酷な部分も隠さずに表現していたようです。善悪を超えたものが必要だったようですね。白秋は「赤い鳥」に多く発表していますが、いわゆる残酷な内容の作品が載っていることを考えると、「赤い鳥」は単なる子ども向けではないかもしれません。「三歳の記憶」という中也の詩があります。それは、「稚廬の上に 抱えられてた、すると尻から 蛔虫が下がった。その蛔虫が、稚廬の浅瀬で動くので 動くので、私は吃驚しちまった。」…といったような詩で、このような幼い頃のグロテスクの記憶などは、「赤い鳥」などの児童雑誌と、どこかつながるところもあるかもしれませんね。



「赤い鳥」創刊号。1918(大正7)年発行。芥川龍之介、有島武郎、小川未明、北原白秋などの童話作品を紹介。日本の近代児童文学における優れた童話作家、童謡詩人を育成、輩出した。可愛らしい表紙絵とは裏腹に、現代の感覚では、子ども向けとは思えない残酷な白秋の詩「金魚」も収録。中也も手に取っていたかもしれない雑誌の一つ。

「月光とメルヘン」監修者の視線

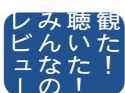
中也の子ども時代の児童出版

向川幹雄 (大阪府立国際児童文学館館長)



中也が生まれた明治期の児童出版界では、博文館が王座を占めていました。雑誌「少年世界」、叢書では「少年文学」や「日本お伽噺」などが勇

壮な話で少年の心をとらえていました。ところが大正期に入ると、実業之日本社が台頭してきます。有本芳水や竹久夢二の詩を載せた雑誌「日本少年」、島崎藤村の「眼鏡」などを収めた「愛子叢書」、これは富山房から出たのですが、「模範家庭文庫」といった豪華叢書も出ました。1918年に「赤い鳥」(赤い鳥社)が出ます。この雑誌はよく知られているように、芸術の香り高いもので、清水良雄の表紙絵、あるいは芥川龍之介の「蜘蛛の糸」などがそれを物語っています。これに刺激されて「お伽の世界」「童話」「コドモノクニ」などの雑誌が創刊され、北川白秋・三木露風・西條八十の童謡が発表されました。こうした風潮が幼少年期の中也にどう関係したか興味をひかれます。



◎映像とダンスと音楽の融合が不思議な気分させられました。
キッシュで可愛い演出なのになぜか分かりませんが終盤は涙が出そうになっていました。(30代男性 珍しいキノコ舞踊団×plapla[The Rainy Table]より)
◎中也の家系、兄弟、書簡などを見て、詩から受けるイメージとは別の具体的な事実からもう一度詩を思い返すことができました。(60代男性 「中也の兄弟たち」より)
◎笑い話にしているが大切なことを伝えている。エニーのインタビューと連動しているのが良い。(70代男性 「海上尚史が語る舞台「僕たちの好きだった革命」」より)



◎歌唱力のすばらしさに感動を覚えました。塩田さんの歌の深さに酔いしれ、今まで聞いたことなかった歌の力を、生の力を、感激を持って聴く幸せにひたりました。(60代女性 「三枝成彰・辰巳琢郎の宝くじおしゃべり音楽館」より)
◎柄本さんに出会えて嬉しかったです。生きている間にもう一度会いたい。人間、いろいろな人がいる話、心に残りました。ありがとう。(女性 柄本明一人芝居「風のセールスマン」より)
◎久しぶりのラーメンズ公演でした。スタジオの大きさ、雰囲気合っていて、またぜひ開催してください。脳に効くラーメンズです。(20代女性 ラーメンズ第17回公演「Tower」より)

大きかったのではないでしようか。子どもの誕生、やはり、

愛息、文也を抱く中也。1935(昭和10)年頃。この頃、中也はメルヘン的な詩作を多く生みだしている。文也をとてよく可愛がり、日記には文也も詩を好きになってほしい気持ちを書き残していた。だが文也は2歳の時、病気で亡くなる。葬儀の時、文也の遺体をいつまでも離さなかったという。その後、中也は徐々に神経衰弱が高じていく。



具体的には、中也の詩の中でどの作品がメルヘンの世界を表していると思いますか？またどういったところがメルヘンを感じさせるのでしょうか？

那須 「月の光」や「幻影」「湖上」「星とピエロ」などがあります。そして中也が描こうとしたメルヘンというのが、20代後半に書いた「一つのメルヘン」という詩にうまく表現されているのではないかと思います。メルヘン的な詩は、息子文也が生まれて、その当時住んでいた東京から、一時期山口に戻っていた期間に多く書いています。やはり、子どもの誕生ということが大きかったのではないでしようか。子どもが生まれて中也の楽しかった幼少期を思い出したり、同時に生死の問題が浮上りてきて、色々な要素が織り交ざった形でメルヘン的な詩に表れてい



ると思います。「一つのメルヘン」では人間は誰も出てきません。非常に幻想的な世界です。色々な読み方が出来ませんが、死の世界も感じさせます。「小石ばかりの河原」は「賽の河原」(死んだ子どもが行くといわれる冥途の三途の川)を想像させます。また「蝶」が出てきますが、一般的に「蝶」は、死んだ人の魂が宿って現世に来ているメッセンジャーと言われることがあります。色んな要素から現実ではない異世界の匂いがしますね。

池田 そして、この詩の世界には熱がない！とても冷えた世界にみえるので死に近いともいえますね。

那須 また、月光にも同じことがいえまね。太陽の光とは違い、月光は夜の世界で死の世界に近いところがあります。中也は知っていたか分かりませんが、もともとドイツ語のメルヘンは太陽の光よりも、月光の要素が強いようで、そういうお話をメルヘンと言っていたようです。

「一つのメルヘン」という詩は、さらっと読んだ感じでは「死」のイメージが感じられないのですが…

那須 たぶんタイトルの「一つのメルヘン」から、いわゆる現代でいうメルヘンチックな感じを想像するのでしょうか。また「さらさら」というきれいで、とても耳障りのよい言葉で構成されているからかもしれません。でも、描かれている世界はどうだろうと考えると、色んな要素が含まれ、様々な風景が目に見え、そういう点からもこの詩は他の詩よりも一層幻想的な世界ではないかなと思います。

中也の描こうとしたメルヘンは、ただ幻想的というだけではなく、心の奥に常に潜んでいる死や喪失感までもを表現しようとしたのです。逆に明るいメルヘン調の詩はあるのでしょうか？

池田 「お道化うた」や「ピチベの哲学」とか、おどけた感じの詩があります。道化というのは、常識を外す一つの方法で、ピエロなんかそうですね。昔は王様の前で、おどけたり、風刺をすることで、現実的な秩序をひっくり返すという意味がありました。中也の道化調の詩も、ベートーベンのことを「ベトちゃん」、シューベルトのことを「シュバちゃん」とおどけて呼んでいる詩があります。当時は西洋音楽といったら崇め奉っているような世の中で、聖聖ベートーベンのことを「ベトちゃん」と呼ぶということは、そういう世の中をちょっと小馬鹿にしているような、傍から見て笑っているような効果がある。それも一種のメルヘンではないでしようか。

中也の詩は西洋の香りがして、こてこての日本風ではないと思います。ちょっとハイカラな匂いがするというか…。

今回、中也の「メルヘン」「月光」をモチーフにした詩にふれて、新しく見えた中也の一面はありますか？

那須 中也はほぼ独学でフランス文学を翻訳していて、そこから取り入れたメル

ヘンチックなものが詩に多く表現されています。中也はのちに「日本のランボー」と呼ばれていましたが、中也の詩は西洋の香りがして、こてこての日本風ではないと思います。ちょっとハイカラな匂いがするというか…。だから中也は、そういうところが新鮮で面白いだろうな、と思いました。そういう思考があるからこそ「一つのメルヘン」という幻想的な世界に向かったのかなという気がします。ぜひ、今回の特別企画展でみなさんに中也の様々な「月光とメルヘン」にふれてほしいです。いろんな情景が浮かぶ中也の詩。解釈は読者の自由だと思います。

最後に今回の見どころを教えてください。

那須 若い人たちにも目でふれて楽しんでいただけるような展示にしようと思っています。現代は、デジタルなものが多く、手書きの味わいのある文字や絵などが減ってきていますよね。なので、人の手が作り出す深い味わいを見ていただければと思いますし、メルヘンは、ただきれいな、明るいというものだけではなく、人間の心の奥深くに潜んでいる暗闇の部分表現しているところを受け取ってもらえたらと思います。

特別企画展「月光とメルヘン」ポスター



特別企画展「月光とメルヘン」

2009年7月24日(金)～9月27日(日)

9:00～18:00(入館は17:30まで)

会場:中原中也記念館

[入館料] ()内は20人以上の団体料金
一般 310円(262円) 大学生 210円(157円)
小中学生 150円(105円) 70歳以上 無料

関連イベント

ワークショップ「中也の詩の絵本を作ろう」

2009年7月30日(木)、9月26日(土)

各日とも14:00～16:00

会場:中原中也記念館分館2階

「一つのメルヘン」「月夜の浜辺」の詩のオリジナル絵本を作ります。

[講師]山口智子(手づくり絵本の会代表)

[対象]小学生以上(各回定員8名)

[参加費]300円(要申込) ※素材や道具は記念館で準備します。

[申込先]中原中也記念館 TEL.083-932-6430

プロムナード・トーク&「月世界旅行」上映会

2009年8月22日(土)、9月20日(日)

各日14:00～15:00

会場:中原中也記念館

担当芸員が展示の説明をします。また、中也が生まれる少し前の1902年、フランスのジョルジュ・メリエスが製作した映画「月世界旅行」(約15分間)を上映します。

[料金]要入館料(申込不要)

PRESENT

特別企画展「月光とメルヘン」のパンフレットや中原中也記念館オリジナルグッズなどをプレゼントします。

[申込方法] ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、7月31日(金)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 特別企画展「月光とメルヘン」パンフレット(3名)

B 中原中也記念館オリジナルクリアファイル(3名)

C 「中原中也詩集」(1名)
大岡昇平による編集で、「山羊の歌」「在りし日の歌」の全篇と、未刊詩篇の中から選んだ約60篇を収録した詩集。若波文庫、1981年刊。

[あて先] 〒753-0075 山口市中国町7-7

(財)山口市文化振興財団

「any vol.69 特集プレゼント」係

FAX:083-901-2216 e-mail: any@yfcfp.or.jp

※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

東京都交響楽団特別演奏会プレイベント
都響メンバーによる
「金管五重奏」ミニコンサート
7月4日(土) ①13:00～ ②15:00～
会場: ① 山口市中心商店街(どうもん広場)
② 山口情報芸術センター ホワイエ
[料金] 無料(申込不要)



夏休みワークショップ「ケータイ・スパイ・大作戦」
8月13日(木)、14日(金)、17日(月)、19日(水)～22日(土)、
24日(月)、26日(水)、27日(木) 各日13:00～17:00
会場: 山口情報芸術センター
[料金] 500円(要申込) ※申込方法等、詳細はお問い合わせください。

いつもと違う夏計画

いよいよ夏の到来! どんな風に過ごそうかと、計画を立てるだけでもワクワクしてきます。
この夏、anyがお届けするのは、携帯電話を使ったゲーム式のワークショップや、
夜空の下で楽しむ野外映画上映会、気ままにクラシックを楽しむミニコンサートなど、夏の思い出に
ちょっと変わった彩りを与えてくれる楽しい企画ばかり。さあ、いつもとは違った夏があなたを待っています!

特集

子どもも大人も満喫の
夏おすすめプラン

真夏の夜の星空上映会
「亀は意外と速く泳ぐ」ほか
8月14日(金)・15日(土) 日没後(19:30頃開始予定)
会場: 中央公園(山口情報芸術センター前)
[料金] 無料(申込不要) ※雨天の場合はYCAM内



佐藤俊介 photo: Gilles-Marie Zimmerman

東京都交響楽団特別演奏会プレイベント
佐藤俊介氏による
ヴァイオリンミニコンサート
8月23日(日) 15:30～
会場: 山口情報芸術センター ホワイエ
[料金] 無料(申込不要)

山口情報芸術センター(YCAM)

http://www.ycam.jp/

マレビトの会 滞在制作/新作演劇公演

「PARK CITY」

2009年8月28日(金) 19:00開演
29日(土) 14:00開演 / 19:00開演
30日(日) 14:00開演

会場: スタジオA



笹岡啓子「PARK CITY」(2007)より

演劇と写真が、舞台に新たな記憶を刻む

2009年、YCAMで滞在制作を行うのは、劇作・演出家の松田正隆が主宰する「マレビトの会」と写真家の笹岡啓子。舞台美術・映像実験等を重ねながら、YCAM初となる新作演劇の制作・発表に取り組んでいます。岸田國士戯曲賞、読売演劇大賞作品賞を初め、数々の演劇賞に輝き、90年代から現在まで日本を代表する劇作家・演出家の一人である松田の作品は、「演劇」の感覚を広げるような舞台作品で国内外から評価を受けています。一方、笹岡は、広島に育ち、その後進学で街を離れたことで、被爆地

「広島」というイメージからあえて距離を置いた作品を撮り始め、注目を集めてきました。今回は、松田がテキスト、笹岡が写真を通してお互いのアイデアを膨らませながら、舞台空間での表現を探っていきます。先鋭的な言葉の世界と写真表現が織り成す世界にご期待ください。

わたしはココに注目する!

特殊な客席も見どころです。観客はあえて俳優やセットから遠く離れて演劇を観ることに…。どんな仕掛けがあるのかは公演当日のお楽しみ。さて、そこからどのような世界がみえてくるのでしょうか?

チケット情報 any会員先行予約 7月4日(土)～

一般発売 7月11日(土)～

料金 全席自由 前売 一般 3,000円 any会員/特別割引 2,500円 25歳以下 2,000円
当日 3,300円

[作・演出] 松田正隆 [写真] 笹岡啓子

NPO法人子どもステーション山口共催

演劇公演「旅とあいつとお姫さま」

2009年9月26日(土) 19:00開演

会場: スタジオA

カラフルな色使い、音楽とダンスがあふれる旅と愛の物語



photo: Lami

シンプルな舞台装置と美しい色使いで、独創的な作品世界を作り続けるイタリアの演出家、テレーサ・ルドヴィコ。これまでも新しい世代の子どもたちに向けた活動に力を入れてきた彼女は、日本の子どもたちのための作品も手がけてきました。今回お贈りする新作は、ノルウェーの昔話を題材にしたお話しで、俳優やダンサー、ミュージシャンなど、多彩な出演者と

ともに作り上げた旅と愛の物語。ある晩夢の中で、少年は、きれいな少女に恋をしました。少年は、その少女を探す旅に出ます。旅の途中で、持っていたわずかなお金を全部掘り起こされてしまった死体を助けたり、見知らぬ男の子がついてきたり。そしてついに夢でみた少女と出会い…。旅の途中で不思議な出来事に遭遇する少年の姿を通して、人生に立ち向かう勇気と人間の愛を伝えます。

わたしはココに注目する!

独創的な色彩感覚あふれる舞台に、音楽やダンスを交えて描かれる物語は、子どもだけではなく大人の目にも新鮮。元パービーボーイズのKONTAが音楽で参加するのも必見です!!

チケット情報 any会員先行予約 7月18日(土)～

一般発売 7月25日(土)～

料金 全席自由 前売 一般 2,700円 any会員/特別割引 2,500円 高校生以下 1,200円
当日 3,000円

[脚本・演出] テレーサ・ルドヴィコ [出演] 高田恵篤、KONTA、楠原竜也、辻田 暁、逢笠恵祐

■特別割引: 青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学時入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

イベントレポート

「松田正隆 山口大学 出張レクチャー」



左記でもご紹介した新作演劇公演「PARK CITY」。本格的な滞在制作の前に、劇団マレビトの会の主宰を務める松田正隆

さんが山口大学の授業に出向き、レクチャーを行いました。マレビトの会のこれまでの作品を映像で紹介しながら、現代演劇の可能性を模索する上で重要なテーマとなる「言葉と身体」という問題について解説。役者が台詞を語り、ドラマを描き出す演劇とは異なる独特の表現手法について、約60人の聴講者は熱心に聴き入っていました。学生からは意表をつく質問も飛び出し、松田さんが考え込む場面も。普段の授業では聴くことのない内容に多くの刺激を受けたようでした。8月には制作の裏側をのぞくバックステージツアーを行います。

「PARK CITY」関連 バックステージツアー2009

2009年8月16日(日)・23日(日) 14:00～15:00(各日完結)

※参加無料。申込方法等詳しくはお問い合わせください。

旅するYCAM

ダンスパフォーマンス
「true / 本当のこと」



アーティストがYCAMに滞在し、制作した作品の中で、国内や様々な国を巡り、旅をしているものがいくつかあります。2007年に制作されたダンス作品「true / 本当のこと」もその一つ。ダンサーの白井剛、川口隆夫と、第一線で活躍するアーティストやエン지니어が集まり、YCAMのプロダクションチーム InterLab との共同制作によって誕生しました。ダンサーの身体にセンサーを取り付け、身体の動きで映像、音、LED照明などをコントロールする技術をはじめ、テクノロジーと身体の新しい関係を見せる斬新な舞台作品です。YCAMでの初演後、金沢、横浜を経て、シンガポール、ニューヨークなどを巡回。今後は、ブラジルでも上演が予定されています。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

中原中也の会共催・公開講演

「西條八十の世界」

2009年9月5日(土) 13:00～(予定)

会場: ホテルニュータナカ

童謡詩人・西條八十を知る



今年も中原中也の会との共催で、公開講演を行います。テーマは「西條八十の世界」。講師の筒井清忠は歴史社会学者で、現在帝京大学文学部教授。評伝「西條八十」(2005)で第57回読売文学賞(評論・伝記部門)、第14回山本七平賞特別賞、第29回日本児童文学学会特別賞を受賞しています。

西條八十は、1892(明治25)年、東京生まれ。詩人

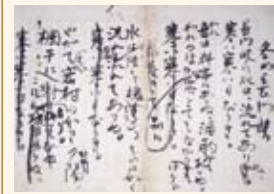
料金 ■ 500円(予定) ※シンポジウム・アトラクション込

[講師]筒井清忠

であり、「唄を忘れた金糸雀は〜♪」(「かなりや)」でおなじみのように、童謡の作詞家として有名な人物です。山口に関連したところでは、童謡詩人・金子みすゞの才能を早くに見出した人物として、映画やドラマで紹介されているのをご覧になった方も多いのではないのでしょうか。当日は、本講演のほか、中原中也の会主催でのシンポジウム、アトラクションなども行われる予定です。

「わたしはココに注目する!」
西條八十は中也の15歳年上。2人の関係といえば、中也の読書記録にその著書名が見受けられる程度ですが、ともに仏国詩人・ランボーに傾倒するなど、見ていた世界は近いかも?

検定 中 也



中原中也は季節に敏感な詩人でした。「春の日の夕暮」「早春の風」「都会の夏の夜」「夏の夜に覚めてみた夢」「秋の一日」「秋の消息」「冬の雨の夜」「冬の長門峡」など、題名にも春夏秋冬それぞれの季節が使われていますし、他にも「早春」「初夏」「秋日」などの言葉が登場します。では、中也の詩のタイトルに最も多く登場するのは、春夏秋冬のうち、どの季節でしょう(「早春」「初夏」「秋日」はそれぞれ春、夏、秋として数えます)。

- 1 春
- 2 夏
- 3 秋
- 4 冬

答えは14ページ

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

レニングラード国立舞台サーカス

「レニングラードサーカス」

2009年8月5日(水) 13:00開演 / 16:00開演

会場: 大ホール

ロシアで最も人気のサーカスがやってくる!



サーカス王国ロシアの中でもレニングラード国立舞台サーカスは最も人気のあるサーカスと言われています。3年ごとに開かれる全ロシアサーカスコンクールの優勝者やグループを多数含む世界でもトップクラス。ロシアはもとより、ヨーロッパ諸国、アメリカ、イスラエル、日本など世界各地の公演で絶大な人気を得ています。そ

んなレニングラードサーカスが待望の再来日を実現、山口にもやって来ます。スリルと迫力満点の空中ブランコ、愉快で陽気なピエロ、世界で一頭と賞される話題の天才クマによる玉乗りや、息を飲むアクロバットな技など、どれもはらはらドキドキの連続で目が離せません。ご家族やお友達を誘って、興奮と感動のステージを味わいにお出かけください。

「わたしはココに注目する!」
ロシアサーカスのアイドルはなんといってもクマ。レニングラードサーカスでもかわいいクマが登場し、玉乗りや自転車乗り、さらにはダンスも披露してくれます。どれも見事な演技で私たちを楽しませ、また興奮させてくれます。

チケット情報 発売中
料金 全席指定 前売 一般 2,500円 any会員 2,000円(1会員4枚まで割引購入可)
当日 3,000円
※3歳以上有料、3歳未満みじ可

山口・島根 2県連携プロジェクト

「東京都交響楽団特別演奏会」

2009年9月4日(金) 19:00開演

会場: 大ホール

伝統ある日本のオーケストラ×若手実力演奏家が競演

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立した東京都交響楽団(通称:都響)。近年では、韓国やシンガポールなどの海外公演も積極的に行い、「国際都市東京のオーケストラ」として国内外にその名が知られています。そんな都響の2年ぶりとなる山口公演。今回は、山口と島根の2県で連携し、名曲で綴るコンサート行います。指揮を務める小泉和裕は、73年の第3回カラヤン指揮者コンクールに優勝以来、ベルリン・フィルをはじめとする世界の有名オーケストラと数多く共演。

オーソドックスでありながら緻密な曲解釈による演奏が好評を博しています。ソリストには、高い技術と豊かな音楽性を磨き、現在ヨーロッパを拠点にキャリアを築く国際派、佐藤俊介。繊細かつダイナミックな演奏で蒸し暑い夜の空気を爽やかな風に吹き替えます。

「わたしはココに注目する!」
山口初お目見えの佐藤俊介さん。若干10歳でフィラデルフィア管弦楽団の学生コンクールに優勝するなど、若手ながらもその実力は折り紙つき。今回はオーケストラとの共演のみならず、プライベートで彼の独演をじっくり味わうことができます。

チケット情報 発売中
料金 全席指定 一般 S席 5,000円/A席 3,000円
※any会員 一般価格より各500円引(1会員4枚まで割引購入可) ※大学生以下 各半額

[指揮]小泉和裕
[演奏]佐藤俊介(ヴァイオリン)、東京都交響楽団
[曲目]チャイコフスキー: 歌劇「エフゲニ・オネーギン」より「ボロネーズ」、チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ドヴォルザーク: 交響曲 第8番 長調 作品88

- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

先行チケット
発売情報
早チケ
8月1日
発売予定!

森麻季&横山幸雄 デュオリサイタル

2009年10月22日(木)

18:30開演

会場: 山口市民会館 大ホール



©SMJ

美しく洗練されたスタイル、豊かな色彩感覚と綿密な構成力を兼ね備えた本格派ピアニスト横山幸雄。そして、日本を代表する国際的なオペラ歌手として注目を集める森麻季。この2人が、この秋、山口でデュオリサイタルを開催。曲目は、「オンブラ・マイ・フ」、「私の愛しいお父さん」や「からたちの花」など、オペラの名曲から懐かしの日本の歌まで幅広いジャンルの楽曲をお届けします。ピアノ・ソロではショパンの「幻想即興曲」など、魅力満載の演奏会です。是非、ご来場ください。

[チケット発売] 8月1日(土) 予定
[料金] 全席指定
S席 3,500円 / A席 3,000円
[問い合わせ]
やまぐち市民文化の会(山口市民会館内)
TEL. 083-923-1000

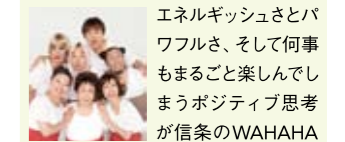
先行チケット
発売情報
早チケ
any会員
先行予約
7月11日

WAHAHA本舗結成25周年 —新たな旅立ちへ 「無駄な力」

2009年11月7日(土)

18:30開演

会場: 山口市民会館 大ホール



エネルギーとパフォーマンス、そして何事もまるごと楽しんでしまうポジティブ思考が信条のWAHAHA本舗の舞台。今回は、久本雅美や柴田理恵、うめちゃんこと梅垣義明も加わり、にぎやかなWAHAHAオールメンバーが出演します。常に笑いあふれる彼らの舞台に乞うご期待!

[チケット発売]
any会員先行予約 7月11日(土)~
一般発売 7月25日(土)~
[料金] 全席指定
前売 S席 7,800円 / A席 6,800円
※any会員 各500円引
※当日券は各1,000円高

中也を味わおう

「道修山夜曲」

星の降るよな夜よるでした
松の林のその中に、
僕は蹲よるんでをりました。
星の明りに照らされて
折しも通るあの汽車は、
今夜何処までゆくのやら。
松には今夜風もなく
土はジツトリ湿つてる。
遠く近くの笹の葉も
しづもりかへつてゐるばかり。

星の降るよな夜でした、
松の林のその中に
僕は蹲んでをりました。

一九三七、二、二



一解説コメント

中也記念館の前庭で行っている屋外展示では、今年度、「星の詩」をテーマに前後期3篇ずつ、6篇の詩をご紹介しています。この詩は「黎明」という雑誌の1937(昭和12)年4月号に発表されました。末尾には制作年月日が記されています。この頃、中也は長男の文也を病気で亡くしたショックから神経衰弱に陥り、千葉市の中村古峡療養所に入院していました。題名にある「道修山」とは、療養所であった山(台地)の名で、「黎明」は療養所を出していた月刊誌です。中也は詩のなかで、「蹲む」という体勢をよく描きます。この詩のなかでも、今にも降って落ちそうな満天の星空のもと、僕はひっそりと、林の中に蹲んでいます。まるで童話のように美しい夜空に対する、その低く小さな姿勢に、林を包む静寂や湿った土の匂いまでもが伝わってくるようです。

観た！
聞いた！
みんなの
レビュー

- また行ってほしい。(ATAKだけでなく)地方でのこういう公演は貴重だと思う。(30代男性 「ATAK NIGHT 4」より)
- 初めて見るタイプのお芝居でした。じわっとくるものがありました。最後のトークで親しみわかりました。(40代女性 柄本明一人芝居「風のセールスマン」より)
- 今、革命を語る人はいないし、個人が出来ているかいないか、とか、私もここが大切なことだと共感できた。特に今の若い人たちは社会に無関心すぎるので、こういう公演はとて素晴らしいことを伝えていと思う。(60代女性 「瀧上尚史が語る舞台「僕たちの好きだった革命」」より)

any通信

今年は浴衣を着て、涼やかな夏の装いで過ごすのも一興では？



新館長へバトンタッチ！



このたび、中原中也記念館では館長が交代。これまで長く活躍されていた福田百合子さんから、本誌P13の「My Favorite」にも登場の中原豊新館長へバトンが渡されました。「文系男子、若々しい新館長として、より美しく、明るい館内と、外側に向っての強い発信を期待致します!!」とエールを贈られる福田さんの言葉を受け、「中也のこととともに、いつまでも心に残り、また訪れてみたい記念館を目指して、日々励みます」とその意気込みを語ってくださった新館長。新しい空気と風が吹き込まれた中原中也記念館は、どんな風が変わっていくのでしょうか。

市民のみなさんが企画した文化活動を応援します。

山口市文化振興財団では、市民文化活動支援事業として、毎年、市民の方が主催で行われる文化事業を募集し、助成支援を行っています。審査の結果、今年は22団体への助成が決まりました。今年度は、コンサートやダンス、演劇といったジャンルだけでなく、コンピュータプログラムを用いたアート作品の展示やアーティストを長期に呼んでワークショップやイベントを行うレジデンス事業もあり、これまでにない幅の広さと、ユニークさをもったオリジナルの企画が多く集まりました。イベントの詳細内容は、当財団のホームページ(<http://www.ycfcp.or.jp/>)に掲載していますので、そちらをご覧ください。毎年3月頃募集を行う支援事業。来年はあなたのオリジナル企画を待っています。



満点の星空のもと楽しんで。

今年も山口情報芸術センター前の中央公園で野外上映会を行います。いつもは一夜限りの上映会でしたが、今回はなんと2日間も楽しめちゃいます。涼しい夕暮れの時間を、ぜひ映画とともに過ごしてみてください。

2009年8月14日(金)・15日(土)

各日とも日没後 (19:30頃開始予定)

[上映作品]「亀は意外と速く泳ぐ」ほか

[料金]無料

※雨天の場合は山口情報芸術センター内

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

佐藤時啓 (美術家・写真家)

アーティストと市民が長期にわたってアート活動を行うプロジェクト「meets the artist」。2004年には、写真家の佐藤時啓さんと市民コラボレータ「ルチーダ・フレンズ」が、巨大カメラやかぶるカメラ、針穴カメラなどを通じて、普段とは違う視線で山口の光と風景をとらえるプロジェクトを行いました。さて、佐藤さんの眼にはどんな光景が焼き付いたのでしょうか？

いまだにこのプロジェクト以上に濃い体験はありません。



何よりもルチーダ・フレンズの面々と過ごした日々は楽しかったです。最初にルチーダの原田さんから連絡をいただき、そしてYCAMスタッフにお会いして企画を練り、壮大な計画が実現しました。最初の原田さんの熱心さや、YCAMの本気などと相まって忘れ難い体験となりました。ワンダリン

グカメラを引っ張って山口まで行き、秋吉台に乗り込んで風景を眺め撮影したこと、千畳敷での日本海の風景や強い風にあおられたことなど、いまだに鮮明に目に浮かんで来ます。そして360度針穴カメラを制作し溶接までして完成させ、市内各所を撮影したことや、最後の展示会でのスタッフの並外れたご尽力など、全ての条件が相まって素晴らしい濃厚な体験となりました。連日の皆との飲み会も楽しかったですね！いまだにこのプロジェクト以上に濃い体験はありません。その後もルチーダの方とお会いしたり、メールのやりとりが出来ることも、ありがたいことだと感じています。

meets the artist 2004

「"pin-holes" project in yamaguchi

針穴画像—光の間—

2005年2月11日～3月13日

会場：山口情報芸術センター ホワイエ、館内各所



ワークショップ「かぶるカメラを作ろう」の企画、巨大カメラ「ワンダリングカメラ」での撮影、美しい光を求めて山口の路地を散策するなど、様々な活動を行ってきた「meets the artist 2004」。その集大成として、同時に360°撮影可能な針穴(ピンホール)カメラを作成し、そのカメラによって撮影された山口の写真や、これまでの活動を紹介する展示会を開催した。

佐藤時啓 SATO Tokihiro

山形県生まれ。美術家・写真家。長時間露光により風景や物事の中に光を影り込んでいくような写真作品の制作や、カメラの構造による公共的な場や空間、装置を各地に展開している。主な活動に、シカゴ美術館での個展「Photo-Respiration: Tokihiro Sato Photographic」(アメリカ)や、カメラ構造のバスで街中を移動しながら映像を体験する「サイトシーングバスカメラプロジェクト」(東京ほか)など。



お先に
試写し
ました
友

「子供の情景」

(2007年/イラン・フランス/81分/カラー)

[監督]ハナ・マフマルバフ [出演]ニクバクト・ノルーズ、アッバス・アリジヨメ

サンセバスチャン映画祭審査員賞/ベルリン映画祭クリスタル・ベア賞

ローマ映画祭ユニセフ賞/モントリオール映画祭革新の映画賞

テサロニキ映画祭女性と平等の機会賞/アジア・フィルム・アワード最優秀作品ノミネート

小さな少女の「学校に行きたい」という思いからスタートする本作。学校に行く為に、彼女は多くの困難を乗り越えなくてはならない。その小さな冒険とも言える一つ一つの出来事に感情を込めて応援したくなる観客は多いだろう。あまりにも自然でリアルなその面持ちにドキュメンタリーと錯覚してしまいそうになりながら、ほのぼのとした感覚を味わう前半。対して、中盤あたりから後半までは、アフガニスタンの持つ戦争や暴力の記憶と子ども達の心の闇がうかがえるシーンが増えていく。全編を通して描かれている、この国の社会的・文化的な価値観や風習なども含め、悲しい歴史と現実が心に突き刺さるとともに、石窟内の陰

影や砂埃の舞う市場、足のすくみそうな崖など、視覚的に印象に残る数々の場面が交錯していく。そんな中で突如として迎えるラストシーンで響くある言葉に、アフガニスタンの現在を感じずにはいられない。

松富淑香 (YCAM シネマ担当)

2009年7月17日(金) 13:30～/19:00～

18日(土) 13:30～/15:30～

19日(日) 13:30～/15:30～

会場：山口情報芸術センター スタジオC

[料金]一般1,300円 any会員/学生1,000円

ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)

障がい者/介護の同行者1名 800円

「子供の情景」作品紹介

舞台はアフガニスタンのバミーヤン。6歳の少女・バクタイは隣に住む少年・アッバスが学校で習った本を読むのを聞いて、「私も学校に行きたい」と強く思う。学校に行く為にノートが必要だけど、お母さんは留守…。アフガニスタンの現在を背景に彼女が体験していく様々な出来事を描く。19歳のハナ・マフマルバフ監督の長編劇映画デビュー作。ハナの父はイランを代表する映画作家モフセン・マフマルバフ(「カンダハール」「パンと植木鉢」ほか)であり、また姉のサミラも映画作家(「りんご」「午後の五時」ほか)として活躍する。本作は、兄メイサム(写真家)がプロデュースし、母マルズィエ・メシュキニ(映画作家)が脚本をつとめている。



My Favorite

中原中也記念館内の某所。天窓から射しこんだ陽光が、時計の針の影をつくります。光も影も少しずつつつつと、時計とは違った時間を示しているようです。日常の中でふと不思議な感覚にとらわれる、そんな瞬間が好きです。

中原 豊 (中原中也記念館館長)



いただきます



おむすび (2個、梅干し付)

300円(税込)

愛情たっぷりのおむすびは元気の素

自慢のおむすびは、ほどよい塩加減が絶妙!ただのおむすびなのにそのうまさに驚きました。産地にこだわったブランド米を使用しているのかわかりませんが、地元のお米を使用。それを毎日その日のために精米し、しゃぎっとした米粒で、ふんわり甘みのあるご飯をガスで炊きあげているそう。なるほど、そこにおむすびを握るお店のお母さんの愛情が加わりさらにうま味が増しているのかも。あまりのおいしさに思わずおかわり!約45年前に先代が始めたこのお店を、いまはその姪っ子さんが引き継ぎ切り盛りしているのだとか。お店のお母さんの笑顔が温かくて、たびたび会いに行きたくなる、そんな家庭的なお店です。

(any会員限定の特典あり)

「番茶(ばんちゃ)」

山口市中央3丁目1-40 TEL.083-920-1663

営業時間:17:30～23:00 不定休

GOOD GOODS

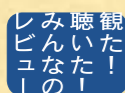


YUDA ART PROJECT
オリジナルてぬぐい

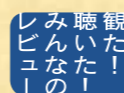
足湯めぐりにも最適。

昨年11～12月に、市内の湯田温泉を舞台に行われた「YUDA ART PROJECT」は、温泉街を散策しながら3つのアート作品を体験することができる大規模な屋外アートプロジェクト。その関連グッズとしてオリジナルてぬぐいを制作しました。白地にプロジェクトのロゴマークや「湯」の文字がブルーであしらわれたおしゃれで粋なグッズとして観光客や地元の人々に大好評。プロジェクトは終了しましたが、引き続き、山口情報芸術センター1階事務局で販売しています。これを片手に足湯めぐりに行くもよし。温泉に入るのもっていかもよし。実用的なグッズです。なくなり次第販売終了、ご希望の方は早めにお早め!

価格:500円(税込)



◎自分の存在を探すサラリーマン、どこにも所属しない男、人生の重みをしっかりと語りながら、全体の飄々とした空気感がたまらなく良かった。(20代女性 柄本明一人芝居「風のセールスマン」より)
◎原稿と発表されたものとの比較により原稿の情報(感情、勢い、雰囲気)などがよく分かる。(20代女性「哀悼の詩」より)
◎テーマ曲?に合わせた振りがとてもかわいらしく自分でもしてみたい。(50代男性 珍しいキノコ舞踊団×plapla「The Rainy Table」より)



◎すばらしかったです!!感激して心が震えました。どこまでもPOPでキュート!!このすばらしさは言葉にできません。(30代女性 珍しいキノコ舞踊団×plapla「The Rainy Table」より)
◎今日のようなアットホームな雰囲気であれば、オーケストラを気軽に楽しめるので、素人でも見に来ようと思える。(30代男性 「三枝成彰・辰巳琢郎の宝くじおしゃべり音楽館」より)
◎たまたま湯田温泉にきたのですが、近くに記念館があると知り、たまたま立ち寄りました。すてきな時間、ありがとうございました。(30代女性 「第14回中原中也賞」より)
◎心から楽しい時間を過ごさせていただきました。明日からまた元気に明るく過ごそうと心に響いて帰ります。(70代女性 「三枝成彰・辰巳琢郎の宝くじおしゃべり音楽館」より)

陽といつても、まるで硃石か何かのやうで、
非常な個体の粉末のやうで、
さらばこそ、さらさらと
かすかな音を立ててもゐるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶がとまり、
淡い、それでゐてくつきりとした
影を落としてゐるのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、
今迄流れてもゐなかつた川床に、水は
さらさらと、さらさらと流れてゐるのであります……

財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

